

【Vol.29】

今回は海の生き物の多様性について、大阪府立大学 教授 中谷直樹先生から教えていただきました！

【海洋生物の種多様性】

近年、陸上や湖沼の自然や生物の多様性の減少が叫ばれていますが、海の生物の種の多様性も減少しています。

2001 年から 2005 年にかけて世界の研究者によって行われた「ミレニアム生態系評価」の調査では、20 世紀末の数十年で世界のサンゴ礁の約 20%が失われ、科学的な資源評価の対象となっている魚種の 25%が乱獲により著しく枯渇していると報告されています。

実は、日本近海は海洋生物の多様性のホットスポットと言われており、国際プロジェクト「海洋生物のセンサス：Census of Marine Life (CoML)」の研究によって、全海洋生物種数の 14.6%が日本近海に生息していることが明らかになりました。

ところが、そんな日本近海でも埋め立てによる沿岸の開発や外来種の侵入などにより、海洋生物の種の多様性が下がっています。

日本の自然がもたらした豊かな生態系や種の多様性を、海でも残していかななくてはけません。

日本の海が世界的に見てホットスポットだったとは驚きです！

堺市においても臨海部は生物多様性ホットスポットです。

埋立地の多い都会の堺の海にもカニやタイなど、たくさんの生き物がいるので、暖かくなったら一度行ってみてください！

今後も定期的に生物多様性のコラムをお届けしていきます。